



森林×^{アクト}ACTチャレンジ2024

カーボンニュートラルの実現や生物多様性保全への貢献をはじめ、 様々な活動内容から企業等による森林づくり活動を顕彰

日本の国土の3分の2は森林が占め、これらを適切に整備、保全することは、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながり、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献します。また、生物多様性保全といった公益的機能を発揮させる上でも重要です。

SDGsやESG投資への関心が高まる中、企業等が支援等を行って行う森林づくり活動が全国で広がっています。民間の活力を生かした森林づくり活動は、森林整備による気候変動対策や生物多様性保全を国民運動として展開する上で、また、豊かな自然を未来に守り伝えるためにも重要です。

このため、林野庁では、さらに多くの企業等に森林づくり活動へご参画いただくことを目指して、企業等による森林づくり活動を顕彰する取組「森林×ACTチャレンジ」を行っています。

今回の応募及び審査の状況

本顕彰制度は、2022年度より「森林×脱炭素チャレンジ」の名称で開始し、2023年度には企業等による森林由来のJ-クレジットの活用について顕彰するJ-クレジット部門を創設したところです。

また、近年は生物多様性に関する国際的な関心が高まっています。2022年に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)では、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急の行動をとるというネイチャーポジティブの目標が掲げられました。また、民間における取組としても、2023年に「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)」の提言が公表され、企業活動における自然資本や生物多様性に関する情報開示に向けた国際的な動きが拡大しています。

このような生物多様性に関する国際的な関心の高まりを受け、2024年度より、生物多様性保全を新たな評価項目に加えるとともに、幅広い視点で森林への関わりを一層拡大していただきたく、「森林×ACTチャレンジ」と名称を変更しました。

今回は、50件の応募となり、半数近くが初めてご応募いただく企業等でした。また、建設業や製造業等の他分野の業種

からもご応募いただく等、本顕彰制度の取組が徐々に浸透しています。

今回選ばれた「森林づくり部門」9件、「J-クレジット部門」3件の受賞者について、取組の概要をご紹介します。

森林×ACTチャレンジ2024 募集内容等

応募期間：令和6年4月15日～6月28日

応募数：50件(森林づくり部門：43件、J-クレジット部門：7件)

審査内容：整備した森林に係るCO₂吸収量と取組内容(森林づくり部門)
取得した森林由来J-クレジット量と活用内容(J-クレジット部門)

応募対象：令和4年度及び令和5年度の間に森林整備(J-クレジット部門においては森林由来J-クレジットの活用)を行った法人、団体、個人、地方公共団体



ちば森づくりの会の皆さん(活動拠点ログハウス前にて)



森林整備(集材)



森林の大切さを学ぶ活動(自然観察会)



整備された里山で観察されたヤマタマムシ



里山を育てる植樹活動

受賞者の取組概要



特定非営利活動法人 ちば森づくりの会

※グランプリは森林づくり部門から選定されました。

※()内の数値はCO₂吸収量になります。

森を守りたい想いは一つ
森と自らの健康を目指して

ちば森づくりの会は「森と自らの健康のために!」をスローガンとして、森林施業を通じ健全な森林を育成し、人類にとって望ましい地球環境の実現に寄与することを目的に活動する実働型の森林ボランティア団体です。地元の行政や森林組合と連携し、地域住民交流の場となる里山林や所有者だけでは管理できない民有林を活動の対象として施業計画を策定し、植栽、下刈り、間伐等の森林整備を継続的に実施しています。間伐材を有効活用した木工品のイベント出展やログテーブルの公共施設への寄贈等による資源の循環、整備したフィールドでの地域住民を対象とした植樹や自然観察会の開催、林内環境改善による生物多様性の改善等、地域の発展に向けた継続的かつ多岐に渡る活動が高く評価されました。(34t-CO₂)

森林づくり部門

優秀賞

林野庁長官賞

鹿島建設 株式会社



社有林材を活用したCLTを用い建設した研修施設

CLTパネルを採用した新たなユニット化工法を適用し、社有林材を活用した研修施設を建築。また、社有林においては、林業と生物多様性保全の両立を目指したゾーニングを行い、管理経営を実施。
(75 t-CO₂)

株式会社 大林組



環境制御されたカラマツ苗木の人工光育成

木造建築の推進に繋がる再造林に向け、所有林を活用した皆伐・植栽に加え、人工光による苗木生産技術を開発。希少種に配慮した森林管理を通じ、地域住民の啓発・交流の場を提供。
(74 t-CO₂)

サントリーホールディングス 株式会社



「天然水の森」で確認されたサシバの雛

全国26か所に設定した「天然水の森」において、地元関係者等と連携し、森林整備と生物多様性保全の取組を実施。間伐木は「育林材」として地元の学校や公共施設等で活用。
(60 t-CO₂)

サンデン 株式会社



小学生の森林整備体験プログラム

「生物多様性が向上する事業所の森」を目指し、森林の育成・モニタリングを定期的に実施するとともに、小学校と連携し、森林整備と生物多様性の関連を伝えるイベントを開催。
(6 t-CO₂)

生活協同組合 コープしが



植林地での新卒職員研修

地域の生産森林組合と協定を締結し、継続的な森林整備の費用支援と職員による下刈り、間伐等の取組を実施。また、組合員参加の森の役割を学ぶ森林整備の体験学習等を開催。
(173 t-CO₂)

四国苗販売 株式会社



外国人技能実習生による育苗

経営意欲の低下等から手付かずの森林を取得し、伐期を迎えた森林については皆伐し100%再造林を実施。育苗・育林事業で地域雇用を創出するとともに技能実習生の教育にも注力。
(312 t-CO₂)



野村不動産ホールディングス 株式会社



つなぐ森における森林整備(間伐)

奥多摩町と協定を締結し「つなぐ森」として森づくりの場を創出。地元林業事業体や製材工場等と連携したサプライチェーンの構築や木材生産と生物多様性の共生を図る施策を実施。(7 t-CO₂)

株式会社 ツムラ



土佐ツムラの森

高知県等と協定を締結し、「土佐ツムラの森」において継続的な森林整備の支援を行うとともに、地元中学校に対し薬用植物の収穫体験を通じて自然環境を学ぶ教育支援活動を実施。(28 t-CO₂)

株式会社 滋賀銀行/金勝生産森林組合



びわ湖マラソン2024

購入したクレジットは「びわ湖マラソン」等の大会運営によって排出されるCO₂のオフセットに活用。クレジット収益は琵琶湖の水源となる森林において動植物にも配慮した整備に活用。(50 t-CO₂)



ヤベホーム 株式会社/対馬市(長崎県)



ヤベホームの森における森林ツアー

クレジットの創出者と購入者が互いのメリットを発信しながら協力して長崎の森林を守る協議会の会員として継続的に活動。クレジット収益はツシマヤマメコと共生できる森林づくりに活用。(28 t-CO₂)

ダンロップフェニックストーナメント大会事務局/ 宮崎県/株式会社 ExRoad



大会に設置された看板

男子プロゴルフツアーの開催にあたり、大会協賛企業からの協賛金を原資に大会運営で排出されるCO₂の一部をオフセットするスキームを構築。クレジット収益は県有林の整備に活用。(1 t-CO₂)



表彰式を開催

10月9日、木材会館（江東区新木場）7階大ホールにおいて、「森林×ACT チャレンジ2024」の表彰式を開催しました。

当日は、受賞企業等の代表者や社員の方々、観覧の企業・団体の方々など、



パネルディスカッション

武村農林水産副大臣(左から2番目)とグランプリ受賞者



約150名にご参加いただき、農林水産省からは、武村農林水産副大臣が出席し、表彰状の授与等を行いました。
グランプリの受賞者である特定非営利活動法人ちば森づくりの会理事長の林様からは、今回の受賞にあたり、日頃、支援をいただいている地元の行政、森林組合、森林所有者の方々、活動に助成いた



林野庁庁内に掲示した木製銘板

森林×ACTチャレンジの
詳しい情報はこちら



森林づくり全国推進会議の
詳しい情報はこちら



だいている団体等、また、会の活動を支える無償ボランティア会員に感謝の意が述べられるとともに、全国で同会と同じように森林づくり活動をされている団体にも喜んでいただけるのではないかと、若い世代が当会の会員に入ってきており、一緒に良い森林環境、地球環境の実現を目指して活動を継続していきたい、とのこと言葉をいただきました。
受賞者の皆様には、木製の表彰状や楯を贈呈し、受賞者名と二酸化炭素吸収量を記した木製銘板をお持ちいただき集合写真を撮影するとともに、表彰式後には、木製銘板を林野庁長官室前に掲示しました。
また、当日は、表彰式に続き、第3回森林づくり全国推進会議（事務局：（公社）国土緑化推進機構）とシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、「企業等による森林づくり活動を通じた経済循環の発展に向けて」と題して、推進会議の会員と受賞者によるパネルディスカッションが行われ、参加者で森林づくり活動について考え、議論を深めた一日となりました。

企業による森林づくり活動の取組を普及

森林づくり活動を通じてカーボンニュートラルの実現や生物多様性保全に貢献する証“グリーンパートナー2024マーク”

受賞者の取組内容やその背景等を伝える“受賞者レポート”



「森林×ACTチャレンジ2024」に応募いただいた企業等の皆様については、森林整備への支援等を通じてカーボンニュートラルの実現や生物多様性保全に貢献する「グリーンパートナー2024」として、林野庁ウェブサイトに応募者名及びCO₂吸収量等を公表しています。
また、「グリーンパートナー2024」の皆様には、マークを森林整備に係る取組のPRにご活用いただけます。



「森林×ACTチャレンジ2024」受賞者による森林づくり活動の取組内容やその背景について、分かりやすく説明した「受賞者レポート」を林野庁ウェブサイトで公開しています。